



全員参加をめざして

北海道ふるさと会連合会 会長 森 隆 信

今年は、春先の大雪・夏の猛暑あり、そして、全国各地の集中豪雨、御嶽山の噴火など、相次ぐ台風による被害が続出して、自然の驚異に震撼させられる年となりましたが、会員の皆様には大事なくご健勝で活躍のことと拝察しております。

当連合会の活動につきましては、いろいろ困難もありましたが、皆様のご協力により無事に遂行できましたことをご報告いたします。

これも会員皆様、そして、これまでにご尽力された諸先輩の方々、また、道庁をはじめとして、北海道関係企業・団体の温かいご理解とご支援によるものであり、心より厚く御礼を申し上げます。

私は、昨年の総会で会長の重責を担うことになり、新役員体制でスタートしましたので新役員の方々には何かと戸惑いを感じた……と思われませんが、毎月の役員会を通して理解が深められて、積極的に参加・協力が得られるようになり、充実した内容で進み、感謝しているところです。

四部会の活動は、担当役員が中心になり、

既に分担している「部会・応援（協調）ふるさと会」との協力の輪が広められて、実りある内容で進めています。

総務部会は、「新年交礼会」に200名からの参加者で、高橋はるみ知事のビデオ放映による年頭のご挨拶を賜り、皆さんで拝聴して新年の門出となり、「定期総会」では、活動報告並びに新年度計画案にも全員の快い賛同を得て新体制に激励をしてくれました。

事業部会の「親睦旅行」では、出発当日の記録的な大雪で、予定していた西伊豆への道が閉ざされ、急遽、房総鴨川へ方向転換のハプニングとなり、また「日本ハム応援観戦」では、私達の声援が届いて好試合となり、パ・リーグの最終ステージにも昇り、北国の私達に勇気を与えてくれました。

産直部会は、第20回開催記念の「産直フェア」に意気込んで準備しましたが、代々木公園の Deng 熱・蚊騒動に端を発し、更に、開催三日目の大雨にも見舞われて、過去に経験のないダブルパンチを喰らい、出店関係者には勿論のこと、北海道を応援する最大イベントの期待を裏切ることになり、誠に申し訳な

く、心よりお詫びを申し上げます。

広報部会は、この「第32号会報」に新しく、ふるさと情報を掲載して広く皆さんに連合会を熟知して貰えるよう編集に努めていまして、ご愛読をお奨めいたします。

大変嬉しいことには当連合会の事務局が、昨年の秋に新築完成した北海道東京事務所内に入居することが出来、更には道庁の各機関及び「企業会員」12社からの力強いご支援を頂いております。

また、多くのふるさと会からの「総会・懇親会」へのご案内を頂いていますので、副会長と協議して可能な限り私が参加させて頂き、各会皆さんの熱い故郷交流と強い絆に引き込まれて、大変感動しております。

※故郷のありがたさ……
故郷の嬉しさ……

故郷あつての「ふるさと会」の歓び

これからも、ふるさと会の皆様には、故郷を大切に、故郷を誇りにして勇気を抱いて、益々ご活躍されますよう祈念し、北海道ふるさと会連合会には全員参加を旨として、ご参加・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

どうぎんは北海道のみなさまにお約束します。

どさんこバンク宣言

- 最高の笑顔でお迎えます。
- 最前の努力をいたします。
- 最適な提案をいたします。



知りたいことも、伝えたいことも、あなたと私、ここで暮らすみんなのために。

北海道新聞には伝えたいことがたくさんあります。
私たちの伝えたいことは、北海道で暮らす多くの皆さんに知ってほしいこと。
私たちの伝えたいことが皆さんの知りたいことになる。
そんな瞬間を大切に考えます。
ここで暮らすみんなのための「わかるをつくる」
それが私たちの仕事です。



わかるをつくる
北海道新聞